

2024年7月10日

株式会社 電通グループ

代表執行役 社長 グローバル CEO 五十嵐 博

(東証プライム市場 証券コード：4324)

電通ベンチャーズ、データ/AI プライバシーの処理基盤を提供する 米国「Skyflow 社」に出資

株式会社電通グループ（本社：東京都港区、代表執行役 社長 グローバル CEO：五十嵐 博、資本金：746 億 981 万円）のコーポレート・ベンチャーキャピタル・ファンド「電通ベンチャーズ 2 号ファンド」（以下「電通ベンチャーズ」）は、企業が顧客の機密データの隔離、保護、管理を行うためのデータ/AI プライバシーの処理基盤提供におけるパイオニア企業である「Skyflow Inc.」（本社：米国カリフォルニア州、CEO：Anshu Sharma、以下「Skyflow 社」）に出資しました。

Skyflow 社は今回、米国のベンチャーキャピタルである Khosla Ventures*が主導するシリーズ B のエクステンションラウンドで 3,000 万ドル（約 47 億円）以上を調達し、電通ベンチャーズは日本のファンドとして初めて同社の資金調達に参加しました。

企業が持つ顧客の機密データは様々なストレージに分散していることから、データを保護しつつコンプライアンスを遵守することは、多くの企業にとって大きな課題となっています。また、近年では、LLM（大規模言語モデル）の活用が増加する中で、企業はこれまで以上にコンプライアンス、セキュリティ、プライバシーそれぞれのリスクに晒されています。

こうした課題に対応するため、Skyflow 社は、世界中の企業が顧客の機密データを取り扱い、安全に LLM を実装し、複雑なデータローカライゼーション要件を満たすための包括的なソリューションを提供します。Skyflow 社のデータプライバシー処理基盤を使用することで、企業は、顧客サポート、分析、マーケティングなどさまざまな用途でのデータ運用の利便性を保ちながら、一貫したガバナンスポリシーの下で機密データを保護することが可能となります。

Skyflow 社は、これまでに、約 10 億件のグローバルな顧客データをサポートし、四半期で 20 億以上に及ぶソフトウェア間でのデータの授受を処理しています。

「LLM や AI が進化を続け、より多くの個人データを取り込む中、企業がプライバシーを技術スタックの中心に位置づける必要性が急速に高まっていると我々は考えています。Skyflow は、世界中のどこにいても、大規模な改修を必要とせず、技術インフラにプライバシー保護を組み込むことができる唯一のソリューションです。」と、Skyflow 社の共同創業者兼 CEO である Anshu Sharma 氏は述べています。

今後、電通ベンチャーズは本出資により、Skyflow 社のビジネス拡大を支援するとともに、電通グループの国内外でのデータプライバシー領域の取り組みとのシナジー創出を目指していきます。

Skyflow 社と電通ベンチャーズの概要は次のとおりです。

<Skyflow 社の概要>

社名	Skyflow Inc.
本社所在地	米国カリフォルニア州パロアルト市
設立年	2019 年
代表者	Anshu Sharma (Co-Founder & CEO)
事業内容	企業が機密性の高い顧客データを隔離、保護、管理することを容易にするデータプライバシー処理基盤の開発・提供
URL	http://skyflow.com/ (英語のみ)

ブランドロゴ:



<電通ベンチャーズ 2 号ファンドの概要>

名称	電通ベンチャーズ 2 号ファンド (Dentsu Ventures Fund II)
ファンド総額	100 億円
ファンド組成年	2021 年
運用期間	2031 年 3 月までの 10 年間を予定
投資地域	国内外問わずグローバルに投資
投資ステージ	シードからレイターまで幅広いステージに投資
URL	https://dentsu-v.com/

※ Khosla Ventures の会社サイトはこちらよりご覧ください。 <https://www.khoslaventures.com/> (英語のみ)

【本投資に関する問い合わせ先】

電通ベンチャーズ

Email : info@dentsu-v.com

【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通グループ グループコーポレートコミュニケーションオフィス 小嶋、杉浦

Email : group-cc@dentsu-group.com